

7月8日（木）放送朝礼講話原稿

皆さんおはようございます。2年3組担任で国語科の高橋覚です。今日はわたしの当番です。そこで、季節の言葉の話をします。今が旬な目に触れる変化や言葉についてのお話しをします。

つまりテーマは「変わること」すなわち「変化」です。もっとも、頭がだいぶ固くなって変化できない私のいう変化ですから、あまりピンとこないかも知れません。

① 一つめは、まず身近なところにある「ことばの変化」について。

学校の中央階段2階から3階に上る踊り場に、こんなことばが書いてありました。

「冷たさとは、自己主張するところです。」と書きだしあり、
次に「温かさとは、人への想いです。」とありました。これを一度読んだときから、そこを通る度に、ずっと気になっていたことがあります。それは、人の心の冷たさについてのお説教が、最初にあったからです。ことばの意味は文脈でとらえなければならぬのですが、明らかに「自己主張」が悪者になり過ぎかな。また、自己主張するところは、冷たさ取ろうか？

そう思っていたら2～3日前に、一行目と二行目が交換されていました。つまり、「温かさとは、人への想いです。」が第一行目にきたのです。これでことばの流れが変わり、全体のテーマが変わりました。お説教から始まるのでなく、テーマが「温かさ」になります。

② 二つめ。変化と言えば一番分かりやすいのが、季節の変化でしょう。何度見ても経験しても、春になればやっぱり桜は素晴らしいなと思うし、目にしみる若葉の鮮やかさに見とれます。

虫たちの変化もその通りです。今年我が家では、山椒の葉にくっついていてアゲハの幼虫を家の中で育てています。いつも庭で緑色の立派な青虫になった頃に鳥に持って行かれるのを悔しいと思っていたからです。黒い固まりがどんどん変身を遂げて色鮮やかな青虫になりました。さて、オスカメスカ、聞いても調べても分かりませんが、家内が勝手にダイゴロウと呼んでいます。ダイゴロウは脱皮の時期を迎えて大変大暴れをしました。花瓶の山椒の葉から離れて天井近くまで移動していました。変身は苦しみを伴うようです。今はカイコのようになって動きません。もうすぐ羽ばたきます。

③ 2年生の現代文の授業で、山月記という小説と一緒に読んでいます。その最初の感想書きで、「これは人が虎になった話したが、自分の性格からいったら、変身してどんな動物になると思うか」と尋ねたら、犬と猫が一番多く、他にサルやウサギ、コアラやライオン、変わったところではナマケモノにニワトリ、それから「希望としては鳥だが、性格ではカメでしょう」という自己分析もありました。なかなか皆さん面白い的確に捉えてよかったです。

ことばも虫も人も、変化しながら生きているのですね。まとめがありませんが、以上です。

